

大会開催にかかる新型コロナウイルス感染防止ガイドライン（共通）

埼玉県小学生バレーボール連盟（以下、連盟）が大会を主催するにあたり、最も重きを置くのは、子供たちが安全に、安心してバレーボールができる環境を整えることです。

今般のコロナ禍において大会を開催するには、関係する大人が共通認識のもと、感染防止に取り組む必要があります。このことから、以下のとおり感染防止ガイドラインを作成しましたので、一人ひとりが内容を理解し、「うつらない、うつさない」ための行動にご協力ください。これを守っていただけない参加者には大会等への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあります。

なお、大会開催要項で定める他の競技及び審判上における感染症対策は別掲ガイドラインを参照し、大会参加にあたり提出を要する書式等は連盟ホームページで確認してください。

1 主な感染経路

（1）飛沫感染

ウイルスを含む飛沫が口、鼻、目などの露出した粘膜に付着すること

（2）接触感染

ウイルスを含む飛沫を直接触ったか、ウイルスが付着したものの表面を触った手指で露出した粘膜を触ること

（3）エアロゾル感染

空中に浮遊するウイルスを含むエアロゾルを吸い込むこと

2 一般的な予防方法

（1）「3つの密（密閉、密集、密接）」の回避

（2）手洗いと咳エチケットの励行

（3）マスク、シールドなどの着用

（4）ソーシャルディスタンスの確保

3 大会前の対応

- 大会に参加しようとする時は、選手に参加の意思があることを確認した上で、保護者の同意が得られていること。
- 大会参加者（大会会場に行く全ての方）は、大会日の2週間前から当日まで健康チェックを行い、自分の状態を確認、記録すること。なお、発熱の症状があ

るなど体調の悪い方、感染が疑われる場合等は参加を控えること。（別記 参加判断基準参照）

- 大会参加者は最小限にすること。試合に出ない選手は参加を控えることとし、引率者は試合に出る選手の人数を超えないこと。
- チーム代表者は、参加者全員の健康報告を把握し、その内容に責任をもつこと。
- 感染した場合に重症化するリスクの高い高齢者をはじめ、基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患、慢性閉塞性肺疾患など）がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている方の大会参加は極力お控えいただくこと。
- 各チームで、参加者全員に対応できる消毒液等、感染対策の用意をすること。
- 大会会場への往路、復路に自家用車の使用を予定する場合は、単一家族での乗車が望ましい。家族以外に乗り合わせをする場合は、乗車する全員が同乗を承知していること。なお、車中ではマスク着用の上、私語を慎むこと。
- 日頃より、チーム関係者に新型コロナウイルス感染症の陽性もしくは濃厚接触の判定が出された場合を想定し、チーム内で連絡体制及び対応を整えておくこと。

4 大会当日の対応

【入館】

- 指定された時間より前に集まらないこと。
- 役員の指示に従い、全員がマスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保ち、走らず入館すること。
- チームで一斉に入ること。遅れての入館は認めない。
- 一人ひとり、手指消毒を施してから入館すること。
- チームIDは、入館時から退館するまで常に首からかけていること。
- 参加者名簿に名前の無い方、IDの無い方は入館できない。

【会場内】

- 常に3密回避に気を配ること。
- 施設が行う感染症対策に従うこと。
- 大きな声で話さないこと。
- 熱中症対策の水分補給以外は飲食をしないこと。
- 触れた部分は各自で消毒すること。

【応援エリア】

- ソーシャルディスタンスを保つこと。座席を使用する際は、使用后、責任をもって消毒すること。
- 応援の際、手すりにさわらないこと。

【待機場所】

- ・指定された場所で待機すること。アリーナ内は人数制限により入場者のコントロールを行うのでむやみに立ち入らないこと。

【共有スペース】

- ・トイレのドアなど不特定多数の人が触る部分は、使用前後に消毒を行うこと。また。履物は必ず履き替えること。

【退館】

- ・試合が終了したら速やかに退館し、駐車場から出ること。
- ・館内で履いたシューズ等の靴底を消毒すること。
- ・忘れ物のないよう注意すること。持ち主が判明しても連盟は預からない。施設も預からない場合は処分します。

5 大会後日の対応

- ・大会終了後2週間は、体調に変化がないか十分注意を払うこと。また、万が一に備え、行動記録をつけるなどして、自身の行動を振り返れるようにしておくこと。

6 予選における会場運営について

- ・地区予選も公式戦です。会場担当チームは参加者である一方で、競技運営の中心でもある。保護者等の理解・協力が得られ、円滑に進行できるよう準備をすること。
- ・感染症対策も会場担当チームが中心となっていくが、他の参加チームも積極的に協力すること。
- ・連盟から大会会場に1本ずつ手指消毒液を配付するが、会場チームはこれとは別に消毒液（手指用、備品など拭き上げ用）を用意すること。
- ・共用部であるトイレやドアノブ、机、イス等、使用の前後で消毒すること。
- ・出口、入口をゾーニングし、（出入口が1カ所なら扉の左右で分ける）一方通行とすること。
- ・会場内の窓、扉は常に開放し、十分な換気を行うこと。
- ・入館を担当する方は、入館前に大会参加報告書の参加者名簿と実際に来ている参加者に齟齬がないか確認すること。またその際に密にならないよう誘導すること。
- ・回収した大会参加報告書は、全チーム分を大封筒（抽選会の際に配布される）に入れ、表面に開催日、ブロック名、会場を記載し封緘する。個人情報が含まれるので取扱いに注意すること。
- ・入館を担当する方は、確認された参加者がチームIDを首からかけた後、一人ひとりの手のひらに手指消毒液を噴射すること。
- ・大会開始に先立ち、参加者を確定させるため、遅れての入館は認めない。

- ・全チームが入館した後は、参加者名簿にないチーム関係者や第三者が会場に入らないよう、出入口に人員を配置すること。この人員は、一旦外に出た参加者が再入場する際に、必ず手指消毒液の実施を促すこと。
- ・会場内に密が生じていないか、第三者が入館していないか定期的に確認すること。
- ・試合をしていないチームが待機するための十分なスペースを確保すること。
- ・水分補給以外の飲食はさせない。
- ・試合が終わるたび、速やかに全てのベンチ（パイプ椅子）の座面、背面を消毒すること。消毒が完了してから次試合のチームを入れること。
- ・大会終了後は、使用した備品および触れた場所等を丁寧に消毒すること。
- ・入場の際に回収した大会参加者報告書（大封筒）は、勝ち上がったチームが2次抽選会へ持参し、当該地区委員長へ渡すこと。
- ・予選会場で新型コロナウイルス感染症陽性判定者が発生した場合、本人もしくはチーム代表者より連盟へ一報が入るが、学校への報告や保健所、行政の対応は、会場チームの代表者もしくは当該地区委員長が行うこととなる。大会時の感染症対策についての聴取に耐えられるよう、完全な対策を講じるとともに、状況の把握に努めること。

6 接触確認アプリダウンロードの推奨

- ・新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA
Bluetoothを利用し、プライバシーを確保して、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性について、通知を受けることができる。
- ・埼玉県 LINE コロナお知らせシステム
不特定多数の人が利用する施設やイベントで、新型コロナウイルス陽性者と濃厚接触した可能性のある方に LINE でお知らせするシステム。大会会場または連盟が発行(予定)する QR コードを読み取ることで使用できる。

別記 参加判断の基準

以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。

ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

【発熱について】

大会等の当日、前日、前々日の3日間のうちに1日でも37.5度を計測した際は、参加を見合わせてください。

感染症法上における発熱の基準は37.5度ですが、厚生労働省より発熱や

体調には個人差があることから、自分の平熱を踏まえたとえでの判断が必要との見解が出されています。現在、社会活動上用いられる発熱の基準は37度とされています。一定数の無症状感染者がいることを想定し、いつもと違うと感じるところがありましたら勇気を持って参加を見合わせてください。

イ 同居家族や身近な知人に陽性判定者及び感染が疑われる方※がいる場合。

※感染が疑われる方とは、PCR検査待ち、同検査結果待ち、同検査の必要性を判断している期間の方を想定しています。

ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。